

第31回 神奈川県美術展



第31回神奈川県美術展

●1期展：
工芸、書、写真

平成7年10月4日(水)—10月15日(日)

●2期展：
日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形

平成7年10月18日(水)—10月29日(日)

会場

神奈川県立県民ホール・ギャラリー

主催

神奈川県美術展委員会／神奈川県

共催

(財)神奈川県芸術文化財団

厚木巡回展

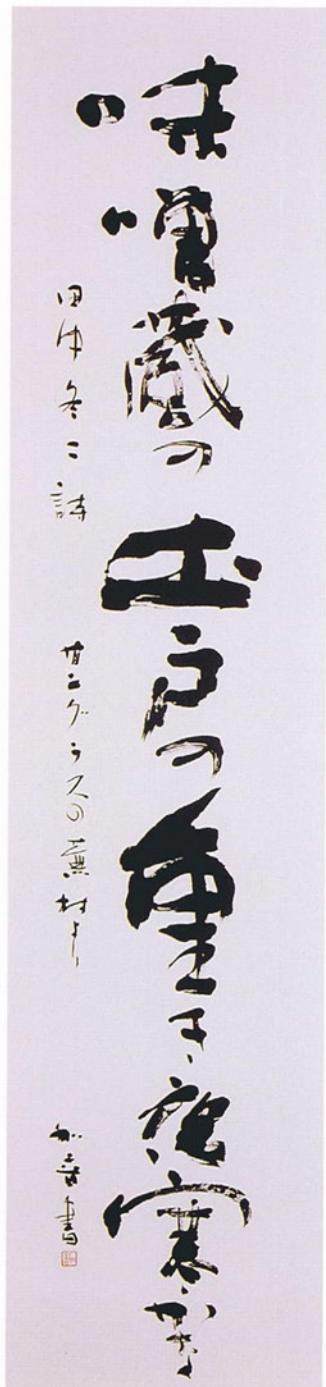
平成7年11月24日(金)—11月29日(水)

厚木市市民ギャラリー

1期展：工芸、書、写真



●大賞/工芸 阿弥陀堂釜……中田 文



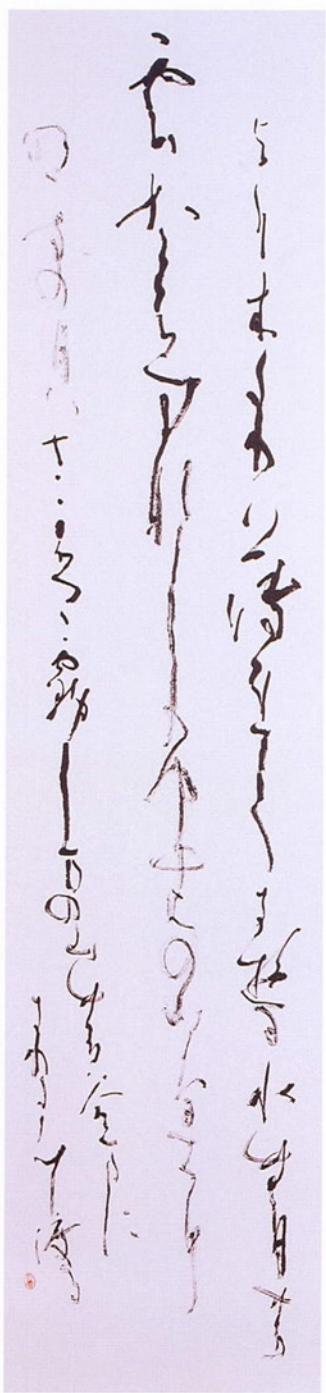
●準大賞/書 サングラスの薫村より……千葉 加音



●準大賞/写真 南極の生息……長谷川 雄二



●特選/工芸 未完成赤い靴……相原 弥



●特選/書 水無月……相部 小香



●特選/写真 蘭舞……中谷 晴男



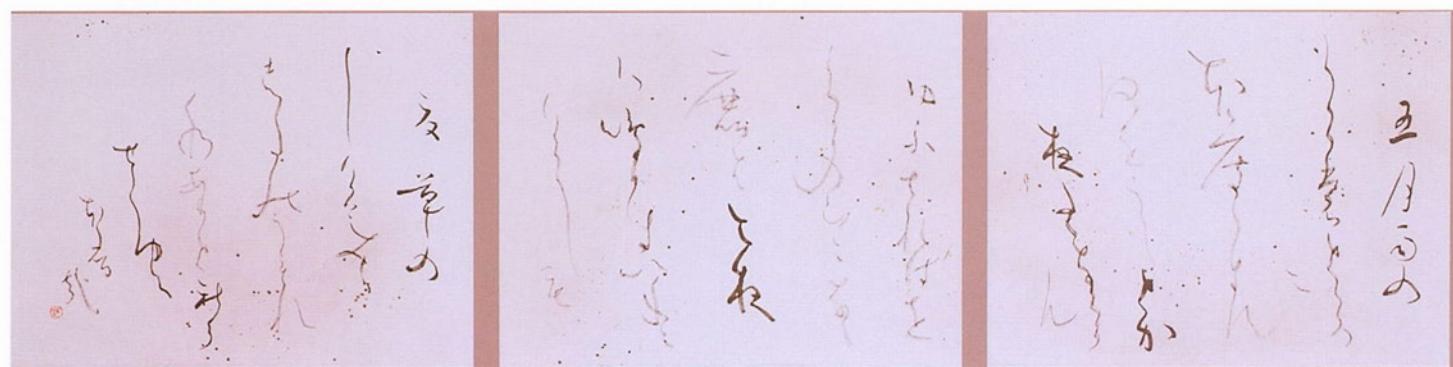
●特別奨励賞/工芸 雪華……杉山 雅子



●特別奨励賞/工芸 飄……大槻 昌子



●特別奨励賞/工芸 陶一水の流れ……村山 恵子



●特別奨励賞/書 五月雨の……西木 梅子

桂浦冲流望太波古畔以林即杨子津
山生湿润柳岸清秀遠流揚江寒飄吹生
更雨風蕭瑟渺歷度秋聲

丁仙芝書于洋

●特別獎勵賞/書 丁仙芝詩「渡揚子江」……座間 幽洋

薦師寺長尾雪永

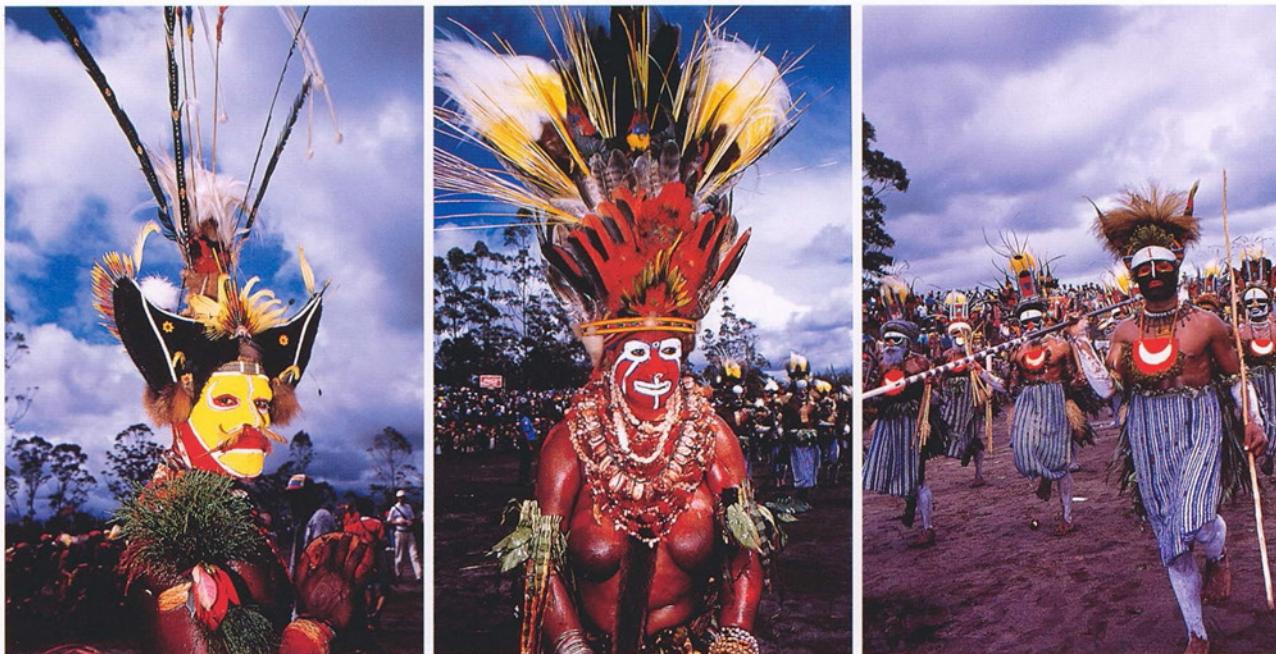
●特別獎勵賞/書 藥師寺……長尾 雪永



●特別奨励賞/写真 カオス的幻景……矢花 一弘



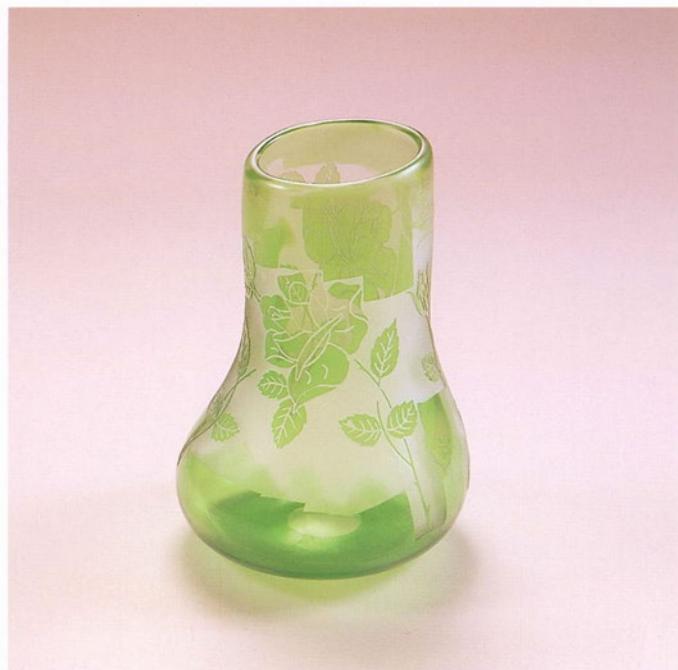
●特別奨励賞/写真 西日の街……村上 吉正



●特別奨励賞/写真 情熱の宴……吉田 陽子



●特別奨励賞/写真 佐助のリス(鎌倉)……白井 孝



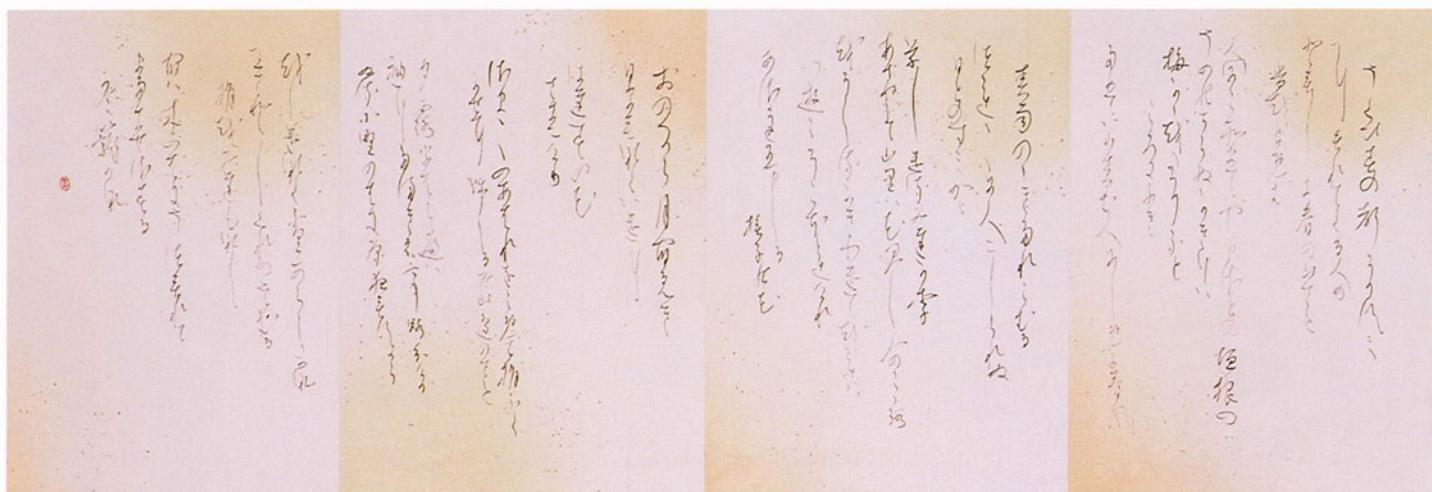
●美術獎学会賞/工芸 クリスタル花器……鈴木 義之



●美術獎学会賞/工芸 花群れて……近野 久子



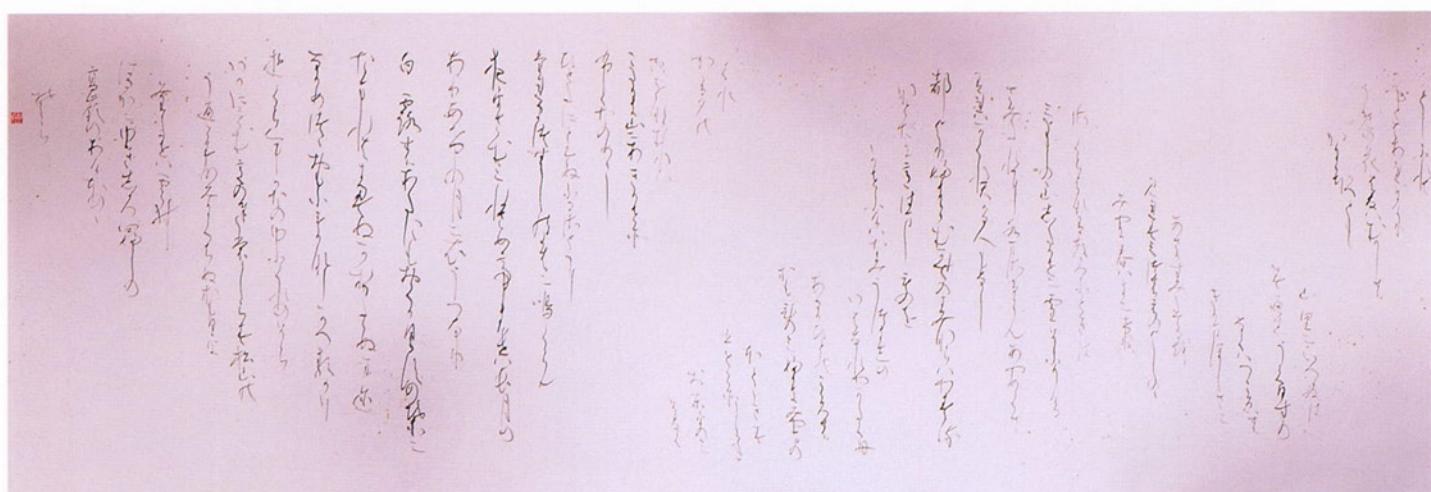
●美術獎学会賞/工芸 平和……藤原 祥



●美術獎学会賞/書 山家集より……甲斐 青女



●美術獎学会賞/書 あかねさす紫野ゆき…… 明石 蕙州



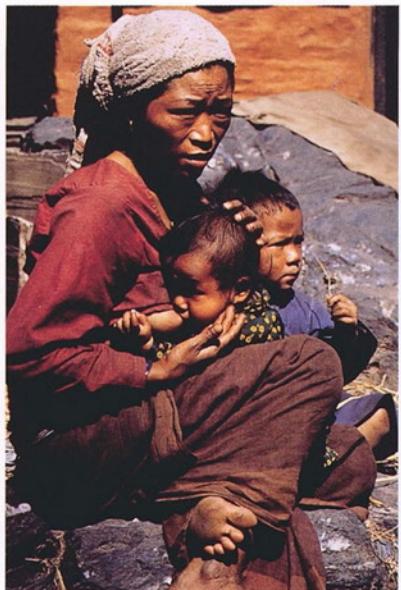
●美術獎学会賞/書 白露……島田 幸舟



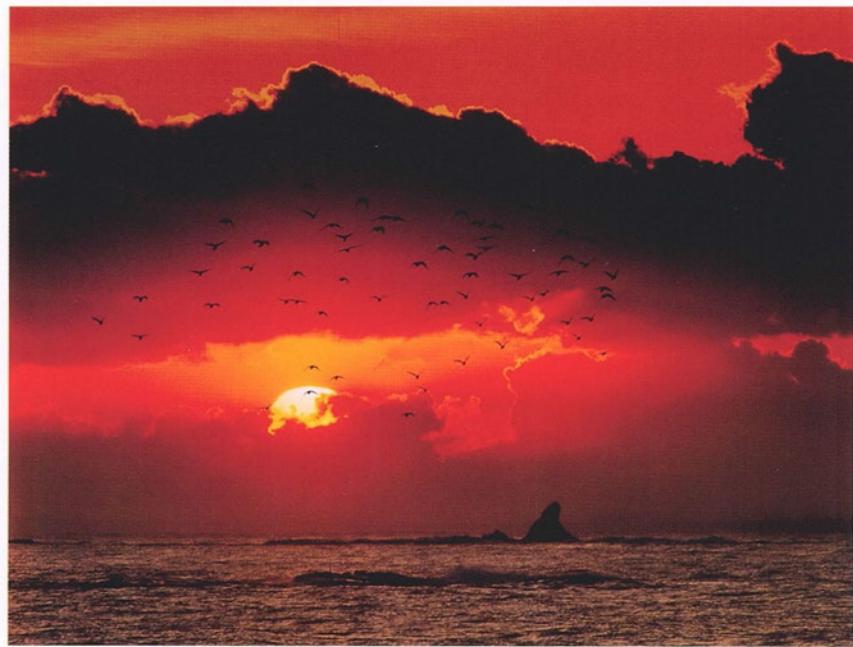
●美術奨学会賞/写真 昆虫の国……尾原 芳子



●美術奨学会賞/写真 月影……濱田 義一



●美術奨学会賞/写真 高地に生きる(ネパール)……山口 道子



●美術奨学会賞/写真 朝の海……青木 保親

受賞作品目録 [工芸、書、写真 部門]

大 賞	中田 文	工芸『阿弥陀堂釜』	横浜市
準 大 賞	千葉 加音	書『サングラスの蕪村より』	横浜市
準 大 賞	長谷川雄二	写真『南極の生息』(3枚組)	横浜市
特 選	相原 弥	工芸『未完成赤い靴』	横浜市
特 選	相部 小香	書『水無月』	海老名市
特 選	中谷 晴男	写真『蘭舞』(3枚組)	横浜市
特別奨励賞	杉山 雅子	工芸『雪華』	横浜市
特別奨励賞	大覩 昌子	工芸『飄』	横浜市
特別奨励賞	村山 恵子	工芸『陶一水の流れ』	伊勢原市
特別奨励賞	座間 幽洋	書『丁仙芝詩「渡揚子江」』	横須賀市
特別奨励賞	西木 梅子	書『五月雨の』	茅ヶ崎市
特別奨励賞	長尾 雪永	書『薬師寺』	横浜市
特別奨励賞	矢花 一弘	写真『カオス的幻景』(2枚組)	横浜市
特別奨励賞	村上 吉正	写真『西日の街』(3枚組)	横浜市
特別奨励賞	吉田 陽子	写真『情熱の宴』(3枚組)	横浜市
特別奨励賞	臼井 孝	写真『佐助のリス(鎌倉)』	横浜市
美術奨学会賞	鈴木 義之	工芸『クリスタル花器』	鎌倉市
美術奨学会賞	近野 久子	工芸『花群れて』	平塚市

- 美術奨学会賞 藤原 昶 工芸『平和』 三浦郡葉山町
- 美術奨学会賞 甲斐青女 書『山家集より』 東京都板橋区
- 美術奨学会賞 明石蕙州 書『あかねさす紫野ゆき』 横浜市
- 美術奨学会賞 島田幸舟 書『白露』 横浜市
- 美術奨学会賞 尾原芳子 写真『昆虫の国』(2枚組) 南足柄市
- 美術奨学会賞 演田義一 写真『月影』 横浜市
- 美術奨学会賞 山口道子 写真『高地に生きる(ネパール)』(3枚組) 川崎市
- 美術奨学会賞 青木保親 写真『朝の海』 茅ヶ崎市

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

[工芸]

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------------|
| 鈴木義之 | 『クリスタルコンポート』 | 堀口成依 | 『時の流れ』 |
| 角村治城 | 『連(練込焼締壺)』 | 建部敏枝 | 『ジユウリー』 |
| 菅原準二 | 『やまめ文こばると平鉢』 | 岩渕永子 | 『風車組の花籠』 |
| 桑原平治 | 『飴釉輪花鉢』 | 芳野勝己 | 『暦手芋頭水指』 |
| 小林輝道 | 『勾玉遊文鉢』 | 岡村徹 | 『挑むかたち』 |
| 黒川富子 | 『さざはしの塔』 | 山下敦子 | 『夢』 |
| 島幸子 | 『早暁(夏)』 | 村主武 | 『ペルシャ青磁鉢』 |
| 釣敬子 | 『切子花器』 | 高橋文子 | 『野草沈丁花染 花台“ジャワのつる草”』 |
| 田島節子 | 『すくい名古屋帯「流水」』 | 高橋文子 | 『野草沈丁花染 四段引出し“くずとわれもこう”』 |
| 中田全怡子 | 『光彩』 | 吉田健二 | 『波紋器』 |
| 甲斐雪江 | 『華風』 | 児島敏子 | 『花器(幾何文)』 |
| 八木芳江 | 『琉球紅型染あけぼの』 | 岩井尚子 | 『染帯』 |
| 金子清 | 『鉄釉白掛刻線文皿』 | 北垣幾子 | 『錦秋』 |
| 辻孝子 | 『花霞』 | 中村良哉 | 『乾漆玄昌石象嵌深鉢「火焰」』 |
| 鈴木利夫 | 『池塘君子硯』 | 林保美 | 『乾漆青貝簾目楕円鉢』 |
| 金子将之 | 『練上花器「脈動」』 | 原恒夫 | 『宇宙パート26』 |
| 長崎悟 | 『炭化窯変壺「星雲」』 | 福岡幸基 | 『春曙』 |
| 南雲龍比古 | 『南海の記』 | 鈴木亘 | 『練上壺』 |
| 手塚蓉子 | 『おしば美術Ⅰ 初春(春らん)』 | 福島寛子 | 『鉄絵大鉢』 |
| 乃木吉之 | 『黄色い壺』 | 川本ちゑ子 | 『搔落向日葵文壺』 |
| 原みさ枝 | 『土の譜』 | 清水信江 | 『多重色被大皿六弁花』 |
| 和田富岳 | 『梅文短冊箱』 | 加古佐知子 | 『やぶつばき』 |
| 谷田部君江 | 『Solo』 | 吉岡末子 | 『着物「あざみ野」』 |
| 能代眞由美 | 『家族写真』 | 山本美世子 | 『追いかけて』 |
| 青木哲 | 『練上鉢「振芳」』 | 宮原二三子 | 『刺し子 はんてん』 |
| 松園裕 | 『青磁長頸瓶』 | 高橋恭一 | 『備前壺』 |
| 山口浩二 | 『青内被入泡玉盛器』 | 木村隆男 | 『備前大鉢』 |
| 鈴木陽子 | 『いっちゃん盛大皿』 | 宮森茂男 | 『備前手捻花入』 |
| 竹神修美 | 『花菖蒲』 | 尾形光俊 | 『抹茶碗』 |
| 五味仍枝 | 『叙事詩(ラーマーヤナ)より』 | 小川由夏 | 『雪影』 |
| 平子叔男 | 『鎌倉彫盛器 アンモナイトヘリオス幻想』 | 西山義彦 | 『輪花櫛目鉢』 |

木下貞雄『練上蹴球文壺』
石川清『灰釉河骨彫紋壺』
二瓶陽子『野草染乱れ箱』
梅田千晶『花の器(漆革)』
青島琉平『フラワー・ポット』
渡辺由紀子『初夏の風景』
江良恆子『炭化窯変花器(赤)』
一関優子『土の息吹』
飯島克己『香合「もみじ」』
飯島克己『硯箱「ふじ」』
五味彦一『白線文深鉢』
大石英夫『油滴天目茶碗』
天野雅史『櫻作り 沈香壺』
松本元久『螺鈿黒手箱』
石田暉忠『桟八角厨子』
三村佐季『染織タペストリー 残照・旭光』
岩崎忠夫『乾漆変塗盛器』
岳野為雄『刷毛目組皿』
根岸律子『春』
佐藤智子『手紡ぎ ニュアンス』
羽鳥惠霧『象嵌銀杏彩文壺』
保田百合子『秋の窓』
萩野正子『未来連想』
三浦久夫『「菜素美」バックル』
原茂一『伊羅保釉壺』
和田美奈子『型染「花明り」』
大澤恭代『型染「春を待つ」』
渡部礼二『白釉組皿』
内野勝雄『信楽大鉢』
志田美智子『硝子切子鉢・手鞠』
深尾雅子『月の女神の夜会服II』

樋代則子『角皿』
竹内宏『緋色大壺』
島村信一『横長花入』
大内明雄『組小鉢』
山本静枝『燐』
森谷啓子『信楽花入』
栗原恒子『爽風』
山内元成『環』
佐藤京子『矩形のひまわり』
武井久美子『imagine』
佐藤綠子『雅』
森廣信枝『夏』
坂本一馬『風韻』
小林瑠璃『クリムトの夢(間仕切り)』
服部純『乾漆盛器』
網野美礼『楽園追放』
雨宮裕子『野草染「浄土」』
久光宣子『群舞』
柴田近子『遙かなる記憶』
大野恵一『禾目天目釉 木の葉文 水差』
大野恵一『黒天目釉 木の葉文 茶碗』
橘川和男『鎌倉彫 芙蓉文鉢』
丸田秀三『太陽花』
加藤瑛子『絣タペストリ 春の瞬間』
林亘『胞芽のある花器II』
植田綽子『碧水』
川合都美『みのり』
澤村祐子『凜』
小林千峰『色紙箱』

[書]

- | | | | |
|-------|--------------|-------|----------------|
| 松本亘正 | 『趙嘏詩』 | 柴田李笙 | 『趙乘文詩』 |
| 平田十臥 | 『祖詠詩』 | 稻葉竹苑 | 『東田に游ぶ』 |
| 大保鳳泉 | 『李白詩』 | 池上好子 | 『夏』 |
| 廣町茜泉 | 『宋之間詩』 | 佐藤俊恵 | 『なつの日は』 |
| 菊地如泉 | 『司空曙詩』 | 野頭莊雲 | 『杜甫詩 春宿左省』 |
| 福島虹泉 | 『盧綸詩』 | 神藤莊松 | 『唐詩』 |
| 兵部彩泉 | 『蘇頌詩』 | 池田莊春 | 『晚次樂鄉縣(陳子昂)』 |
| 原岡紫泉 | 『沈佺期詩』 | 小山莊雪 | 『蓬萊三殿侍宴奉勅詠終南山』 |
| 尾崎静鳳 | 『王僧達詩』 | 渋谷莊江 | 『臨洞庭(孟浩然詩)』 |
| 楠琴処 | 『杜甫詩 秋興(其一)』 | 田村秀亭 | 『漢詩 王維詩』 |
| 府川泉処 | 『臨唐山』 | 若林花泉 | 『張均詩 岳陽晚景』 |
| 谷口春泉 | 『高青邱詩』 | 田所寿泉 | 『寒山詩』 |
| 菅野堯処 | 『楊守陳詩』 | 小池青芳 | 『春樹三句』 |
| 佐藤柚処 | 『瀟湘八景』 | 塩沢鶯州 | 『宇治川』 |
| 飯田容風 | 『簫筆駅』 | 佐藤礼子 | 『亡き母の詠みしうたII』 |
| 上原華泉 | 『李頃詩』 | 河又世津子 | 『またたちかへる水無月の』 |
| 谷川龍泉 | 『季欣詩』 | 仲田万里 | 『望秦川』 |
| 辻巻菌泉 | 『賈島詩』 | 鈴木玉葉 | 『函山雜咏』 |
| 高橋彩秀 | 『草の穂に』 | 大島佐和 | 『高適詩』 |
| 古谷史枝 | 『古今和歌集 わが君は』 | 牧野忠雄 | 『王維詩 登弁覺寺』 |
| 古田泰子 | 『をりふしの』 | 杉山圭子 | 『破山寺後禪院(常建)』 |
| 田端蒼秀 | 『野田行』 | 中山玉韻 | 『送遠(杜甫)』 |
| 早瀬香谷 | 『禪語四句』 | 杉山幽翠 | 『宿雲門寺閣』 |
| 大川泰仙 | 『臨宰橈角』 | 村井純子 | 『百人一首』 |
| 坂口みち子 | 『和歌三首 おく山に…』 | 伊藤青光 | 『百人一首より』 |
| 加藤翠郷 | 『曹植白馬篇』 | 福谷直子 | 『立ちまがふ』 |
| 佐藤紅琳 | 『九月三日泛舟湖中作』 | 大橋啓世 | 『三吉野』 |
| 長岡抱琴 | 『梅の花』 | 逸見月草 | 『山家集』 |
| 野上抱蘭 | 『新古今和歌一首』 | 服部青昌 | 『山家集より』 |
| 宮崎葭瑤 | 『杜甫詩 高都護驃馬行』 | 佐藤青香 | 『百人一首より』 |
| 和田清泉 | 『こよろぎ』 | 絲久美子 | 『常建題破山寺後禪院』 |

高橋淑子『寸松庵色紙臨書』
芹澤八重子『おのづから』
森俊行『夏衣』
野口春峰『五言絶句(無題)』
吉本寿峰『五言律詩 秋登宣城謝朓北樓』
西村節子『三十六歌仙より(額)』
荒砂典子『久方の光』
書川昌子『一つ屋に遊女も寝たり…』
中西雅舟『北庵の歌を』
新井青谿『李白詩 古風其二十六』
木多良子『こころざし』
中川由紀子『冬ながら』
松永瑞子『奈古の海の』
黒田杪嵒『謝緒の詩』
志村魯嵒『許渾の詩』
藤谷桂雪『漢詩 張宣詩』
浅羽紀代子『李嶠詩』
浜岡見雲『劉基詩』
岡崎香芳『杜甫詩』
笠原映翠『この道に』
鈴木白鶯『夕立』
伊藤子扇『秋風』
大澤清雨『うつりゆく』
徳田桂雪『臨筋切』
村上創雲『臨中務集』
内藤慧華『臨香紙切』
加藤靖湖『新撰小倉百人一首より』
大江喜幸江『古今和歌集 春の歌』
大岸昌子『重之集』
村山ちい『貫之集』
指旗登美『飯田龍太の句』

小林千幸『秋』
高橋秀栄『蜻蛉』
綿貫吉野『石川啄木のうた』
穂坂美代子『中野菊夫のうた』
朽木郁子『潮騒に波音をのせて』
野口靖美『途中』
日守菜穂子『見付拓の詩 龍門造像への旅』
山士家啓子『漱石の句』
吉田萬里『北原白秋詩 落葉松』
大木銀子『高村光太郎「冬の言葉」』
大木明子『田中冬二詩集 サングラスの蕪村より』
佐野幸代『山田今次詩 てんぐるま』
菊地里恵子『さだまさし詩 桃花源』
石井久美『柴野民三詩 秋』
山下真由美『ゴーギヤン ノアノア』
鈴木秀明『田中冬二の詩「サングラスの蕪村」』
末永幸枝『三宅惟子のうた』
名畑美峰『薄雪の後』
八木静香『浜千鳥』
杉森伯泉『城ヶ島の雨』
及川節子『東山魁夷文(円山より)』
三谷麗月『田中冬二詩 法師温泉』
小平初子『信するこころ』
茂又武子『月の砂漠』
須藤欣華『山に抱かれて』
西山秀嶺『白牡丹より』
梅田昌葉『北原白秋の詩 啼く虫のより』
馬場虹苑『深沢みどりの詩』
深浦桂子『北原白秋の詩 蘭亭の遊び』
深川静燕『清水重道の詩“沙羅”』
上野春海『三木露風の詩 雪の上の鐘』

- 柴本華雪『高村光太郎の詩 落葉を浴びて立つ』
福島霞葉『立原道造の詩 曆』
眞鍋光子『自作』
桂田悦子『雪の宵』
上村仙石『三好達治の詩 空青し』
原田岬林『花キャベツ』
久保田富美子『大和古寺風物誌』
井上木鳳『破山寺後禪院(常建詩)』
戸ヶ崎光子『天の川』
坂本啓子『蕎麦の花』
竹下エミ子『をみなへし』
岡本蘇心『田安宗武の歌 亂れ咲く』
蓑島湘映『大門の…』
高野梅香『茂吉のうた二首』
中澤碧怜『臨中務集』
川手敬湖『新古今集の歌二首』
弦間秀僊『和歌三首』
住本霞城『和歌二題』
立木紫絢『和歌一首』
布野玉桃『西行の歌』
美和肖光『万葉集より二首』
山口桐里『萬葉防人歌三首』
脇本晃華『古今和歌集卷九より五首』
橋本芳雪『明方の月』
東山右徹『李思衍詩』
菱田右紫『李賀詩』
菊島右雪『李賀詩』
長谷川右扇『林鴻詩』
岩土右紀『春夜宴桃李園序』
小川右佳『歸園田居』
杉浦右花『張九齡詩』
石井右千『吳均詩』
中溝右暉『李白詩』
木須青苑『王維詩』
鈴木青秀『秦州雜詩』
木下静朝『皇甫曾詩』
山野景翠『望雨』
横山蘭葉『宿溫城望軍營(駱賓王詩)』
和田静月『松滋渡望峽中(劉禹錫詩)』
竹内栖涼『仙遊觀』
島田玲花『李端詩』
谷川初葉『秋郊曉行』
山田惠茜『劉滄詩 咸陽懷古』
井澤洋高『杜甫詩 見螢火』
茶木静萌『登樓』
菅井穂谷『錢起詩』
増木萌寿『李白詩』
元松松茜『紅樓院応制』
渡辺悟竹『秋興八首』
安部梅陽『徐騏詩』
木村晴雲『酬李端校書見贈(司空曙)』
門田可寿『蘇軾詩』
三村静睦『劉威詩』
奥田栖芳『杜甫詩』
浅間静江『利久』
若松圭子『すみのえの』
松尾恵子『山ふかみ』
白鹿光秋『謝朓詩 春』
玉崎葉光『和歌一首』
亀井桂華『羊子謌』
荒井翠扇『良寬の五言古詩』
山本花聲『唐詩』

[写真]

佐野圭雪『劉谷を送る』
熊澤艸洲『羊子謡詩』
川添紅琇『杜甫詩 李鄆縣丈人胡馬行』
青木湘堂『白樂天 效陶潛体詩其一』
貝原積眞『寒山詩』
小杉史翠『柳永詩 雨霖鈴』
神東榮春『謝靈運詩 登石門最高頂』
高橋芳声『萬葉の歌』
神原秋翠『万葉集より 秋の歌』

吉田喜久『花鳥の舞』
大山紀一『夕景 北の漁港』
川田良江『日本の休日(座間キャンプの住人たち)』(3枚組)
高木英明『シントラの城』
岡田 貢『印象(IMPRESSION)』(3枚組)
新宮保彦『花籠』
上原公平『山せみ』
高橋 武『夏を咲く』
古谷久夫『雅』
池田順信『幼鳥の頃』
青蔭文雄『滅びの鎮魂歌』(3枚組)
内田清一『成満帰山寒行』(3枚組)
花崎宏平『錯覚』
中川英治『残照の刻』
平井和穂『アルカディア』
中島高美『茜日の塔』
中間知利『黎明』
尾松房子『祭りの男』
中島義範『朝市の女(輪島)』(3枚組)
和田幸夫『売れ残った新聞』
堀坂和夫『栄光への道』(3枚組)
笛尾佳夫『巣立ち』
上石寿美雄『棚田の田植』
藤原 満『暁光を受けて』
太田順一『夕映え』
高木 勉『綺羅星』
森下義朗『残照の飛躍』
荒井 稔『ハーモニー』(3枚組)
榎原俊寿『BIG WAVE』(2枚組)
堀内 昌『風の旅人』(3枚組)
内田幸夫『花の詩』(3枚組)

山本暎一『浮遊する水面』
大工原吉勝『祭りの主役』
福田幸子『仮面』
市川哲男『別れの日ー父からの伝言ー』(4枚組)
佐野正樹『This Time』
渡部 满『合わせて126才 林夫婦のトライアスロンライフ』(5枚組)
君田淳一『少女』
山田 実『新印象主義風 日月麗天』
矢田哲彦『夢幻』
芝原耕造『成人の日・ヨコハマ』
渡部義範『櫛風沐浴』(2枚組)
小林克己『黎明の満月』
堀越一弘『躍翔』
田口 清『船』

審査経過

工芸

●搬入点数254点(208人) ●入選点数130点(126人)

神奈川県美術展は昨年30周年の大きな節目を迎えた。関係方面のご尽力は並大抵のことではないが、多くの作家たちが巣立ち一線で活躍している。又、沢山の人たちが作品を発表し生きがいを享受した。この展覧会の意義は大きい。

今年は記念展のあとで裏祭り的気分か、応募数も減り作品も手堅くこじんまりしたもののが多かった。ただ、これは作品の質が低下したというのではない。確実にレベルは上がっているが、もっと破調を恐れず大胆な発想、提言が欲しかったのである。一方、珍らしい素材、技法も出てきて楽しめた。広く受け入れられるには時間はかかるだろうが、積極的な展開が視界を拡げる筈である。

今更だが、工芸は技術を習得した上で、自己の思想を盛り込んで作品を形成するという大変厄介な分野である。技術だけが先走っても思考のみでも完成しない。なかなか両々相俟ったものに出合うことは少なく、今回も作品に接しつづく難題だと思った。

応募総数254点を7人の審査員で慎重に審査し130点を入選とした。大賞選考委員会(工芸、書、写真の三部門合同)を経て大賞は今年度、工芸部門に輝いた。

大賞・中田文氏の金工「阿弥陀堂釜」は地元で代々の家業を継いでいる方が、36歳の若さだが確かな技術に裏打ちされ、穏和で典雅なたたずまいは好感度第1位であった。益々の練熟と次代への展望も期待したい。特選・相原弥氏の陶芸「未完成赤い靴」は陶器の作品の内、最も大きく量感をもったものである。音楽の造詣深くモチーフにしている。練込み風の音の表意には共感できる。楽譜の描写はややかたく快よい響が聞こえにくい。大賞を競ったが、このあたりで差が出たか。

受賞者はこの他に特別奨励賞・杉山雅子氏の染色、大槻昌子氏の金工、村山恵子氏の陶芸。美術奨学会賞・鈴木義之氏の硝子、近野久子氏の鎌倉彫、藤原昶氏の硝子。何れも存在感がある。

審査にあたって実感したのは、奇異をてらわず、技能と思想が融合して馥郁とした作品には自ずから心をゆさぶられるものである。又、過去の名残よりも、未来のきざしを今後求めていきたい。

永井 鐵太郎

書

●搬入点数265点(265人) ●入選点数203点(203人)

今回展の応募は、漢字128、かな78、近代詩文書59、計265点と若干減少したが、内容的には平均に水準が向上し、上下の差が少くなりつつある。しかし反面特出した情味の溢れるような作が少ない。特に漢字部門について感じられた。これは県美術展を目標として精進して来た人々が受賞して、次の世代がこれに追随する層が育成されつつある過渡期ともいえる。それに反して、かな部門の応募傾向は多様化し、大字・中字・細字・縦形式・横展開と多面的である。それだけ女性の進出が著しいといえようか。近代詩文書部門も、神奈川県美術展の書部門の今後の動向を示す表現のものが多く心強い。但し更に多面的な傾向の作品が増加することが望ましい。

上位作品について感想を述べる。準大賞・千葉加音、近代詩文書一行、現代の書の動向を示唆するものとして一般の人々に親しめる作である。書歴20年、年齢50歳、円熟の境地にある。特選・相部小香、縦3行のかな、かな作品として至難なニジミ、カスレの潤渴を巧みに織りなしている。これから飛躍が期待できる。特別奨励賞・座間幽洋、柔軟な線質で、3行行体、温雅な作風で着実な足跡をふんで行く人であろう。西木梅子、中字かな作品で華麗さのあるのは筆鋒の開閉の巧みさによるものであろう。ポイントを強調し観者に視点を与える。長尾雪永、切れ味のよい小気味よい後味のサッパリとした痛快な作品。それでいて粗雑になっていない。美術奨学会賞・甲斐青女、前回につづいての受賞は根底の確かさをますものである。山家集を書写するにふさわしい西行的シャープさを以てしている。明石蕙州、温健和潤の大字横展開、も少し盛り上りを強調してもよかったです。島田幸舟、紙面の明るさ、用紙のボカシと色彩がよく調和している。和潤な細字かな作品として見事なまとまりを見せている。

殿村 藍田

写真

●搬入点数195点(100人) ●入選点数94点(55人)

応募者の半数は選外となる厳選となった。入選作品の中からも入賞するべき作品が、5、6点あったが、限られた賞だけに残念である。上位入賞は、水準が高く見えたある力作や創意的な作品も多かった。

準大賞の長谷川雄二さんの「南極の生息」の作品は、世界の生物紀行とも言える南極の大自然に生息するペンギンの生態を3枚組で捉えた南極の原風景である。

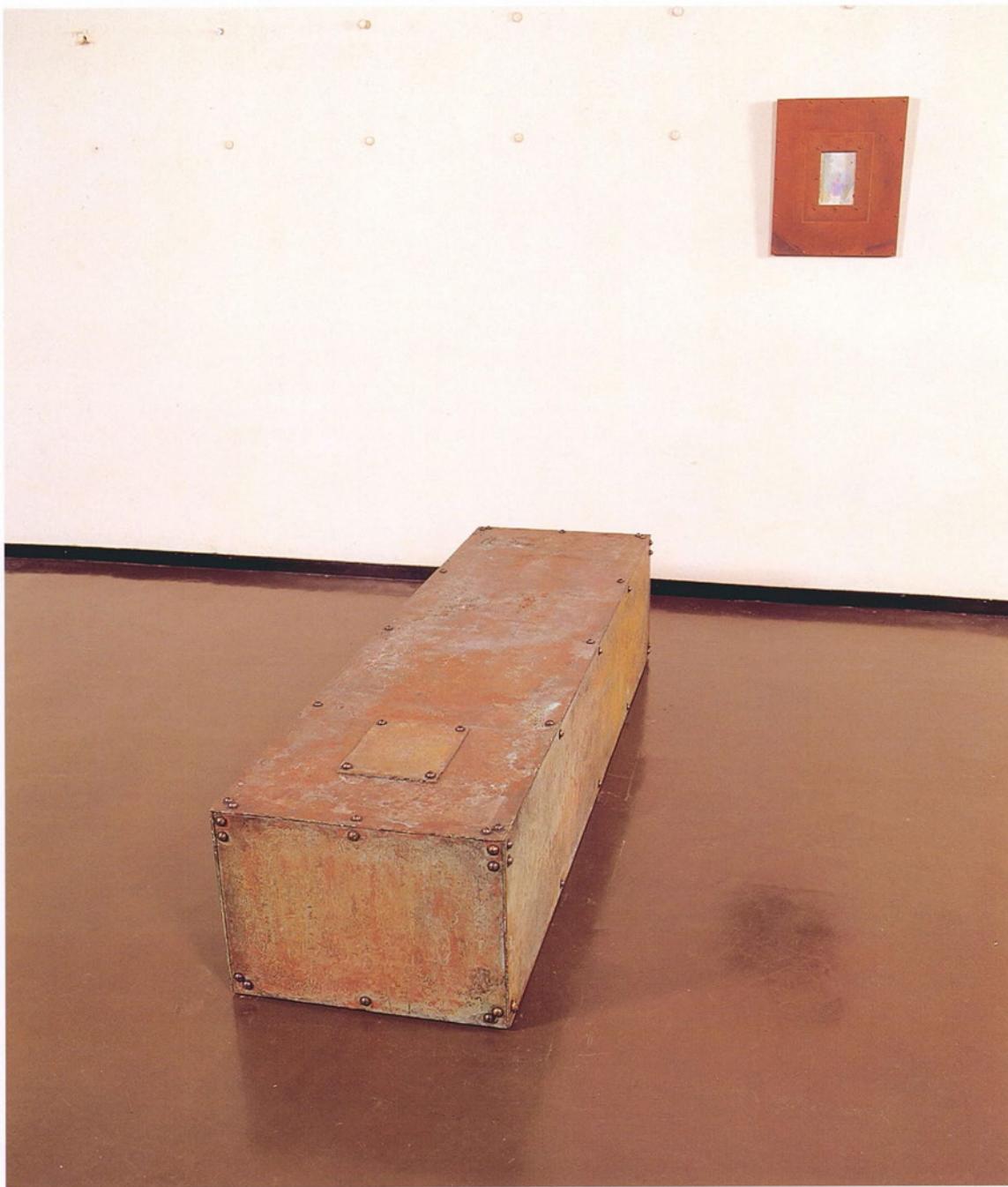
特選の中谷晴男さんの「蘭舞」は、題名の通り、蘭の花が舞い上がる流動感があり、色彩あざやかに黒バック背景に浮彫りにした秀作である。

特別奨励賞の矢花一弘さんの「カオス的幻景」は、フォトテクニックを駆使した都会の潰滅的な不安感を作者のイメージで表現された作品である。特別奨励賞の村上吉正さんの「西日の街」作品は日常的な街の情景を6枚のモノクロでうまくまとめている。シャッターチャンスを生かした庶民の生活がにじみ出ている。特別奨励賞の吉田陽子さんの「情熱の宴」は、パブアニューギニアでとらえたシンシン(歌う意味)の祭りをとらえた3枚組、カラフルな衣裳、はでなマークをして踊る人達を迫力あるカメラアイで捉えた力作である。特別奨励賞の臼井孝さん「佐助のリス」の作品は、鎌倉の佐助神社だろうか、お供え物をねらうリスや木に登るリスの動きをユーモラスにとらえたシャッターチャンスが素晴らしい。

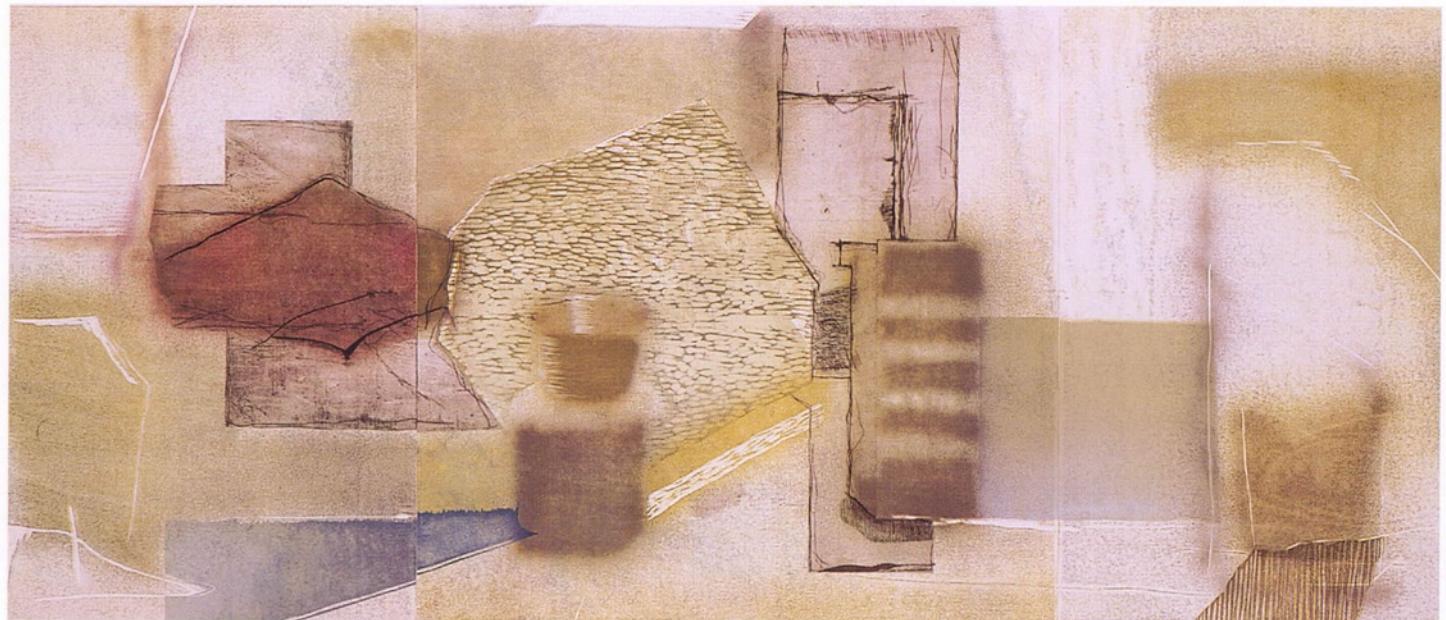
美術奨学会賞の尾原芳子さん「昆虫の国」の作品は、花と昆虫をコラージュで描いた創作的な秀作。同じく学会賞の濱田義一さん「月影」は、あやめの花を手前に入れ月を幻想的に構成した。しかも和紙の上に描いた斬新な作品。学会賞の山口道子さん「高地に生きる」は、昨年、準大賞を受賞した作家で連続入賞した。ネパールの高地に生きる人々をヒューマンな目でとらえた作品である。学会賞の青木保親さんの「朝の海」は、真赤に染まる雄大な朝の風景。海面から昇る太陽を見事にとらえた作品である。

浜口 タカシ

2期展：日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形



●大賞/彫刻・立体造形 封印—過去と未来—……R 津田



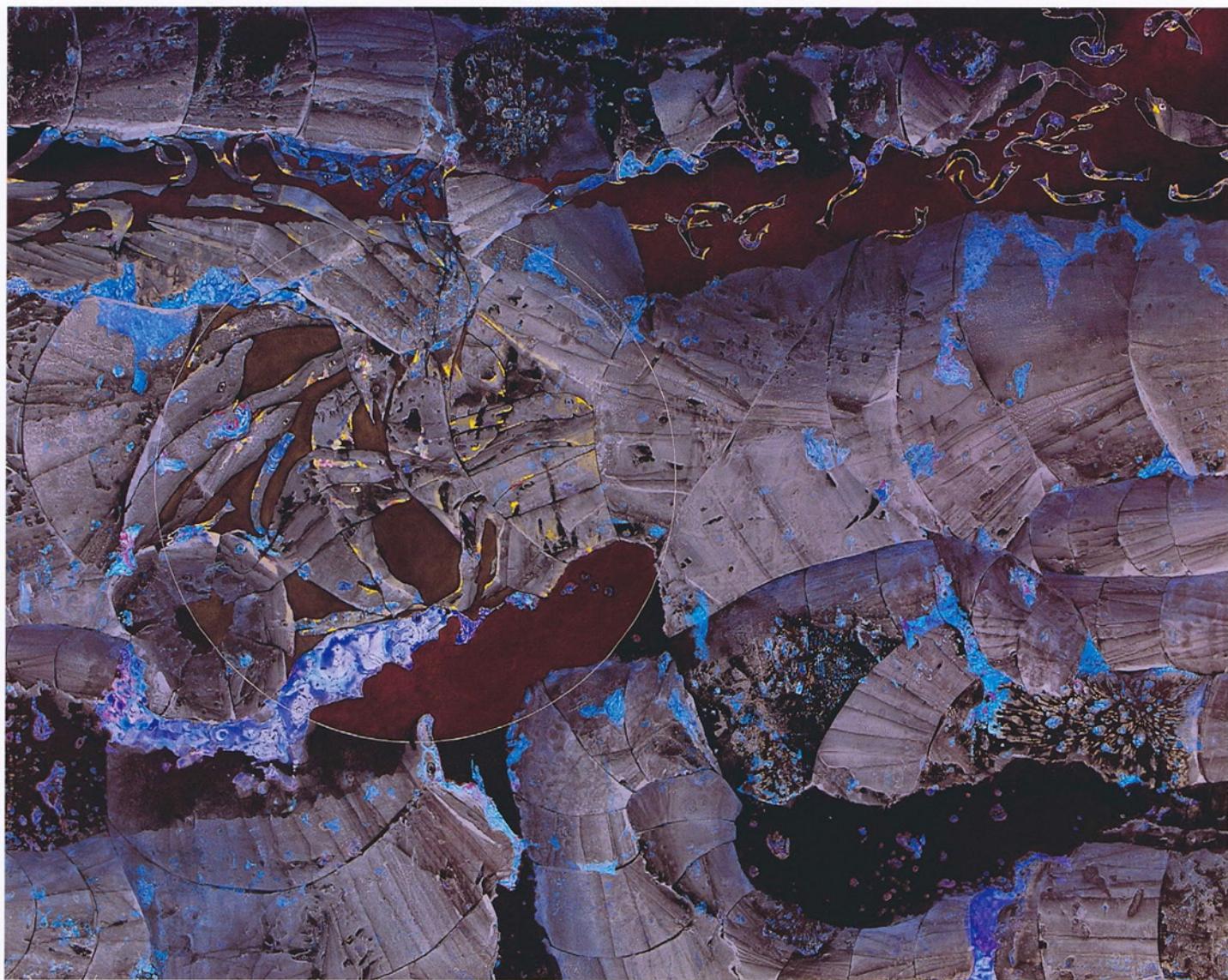
●準大賞/版画 INWARD……小泉 貴子



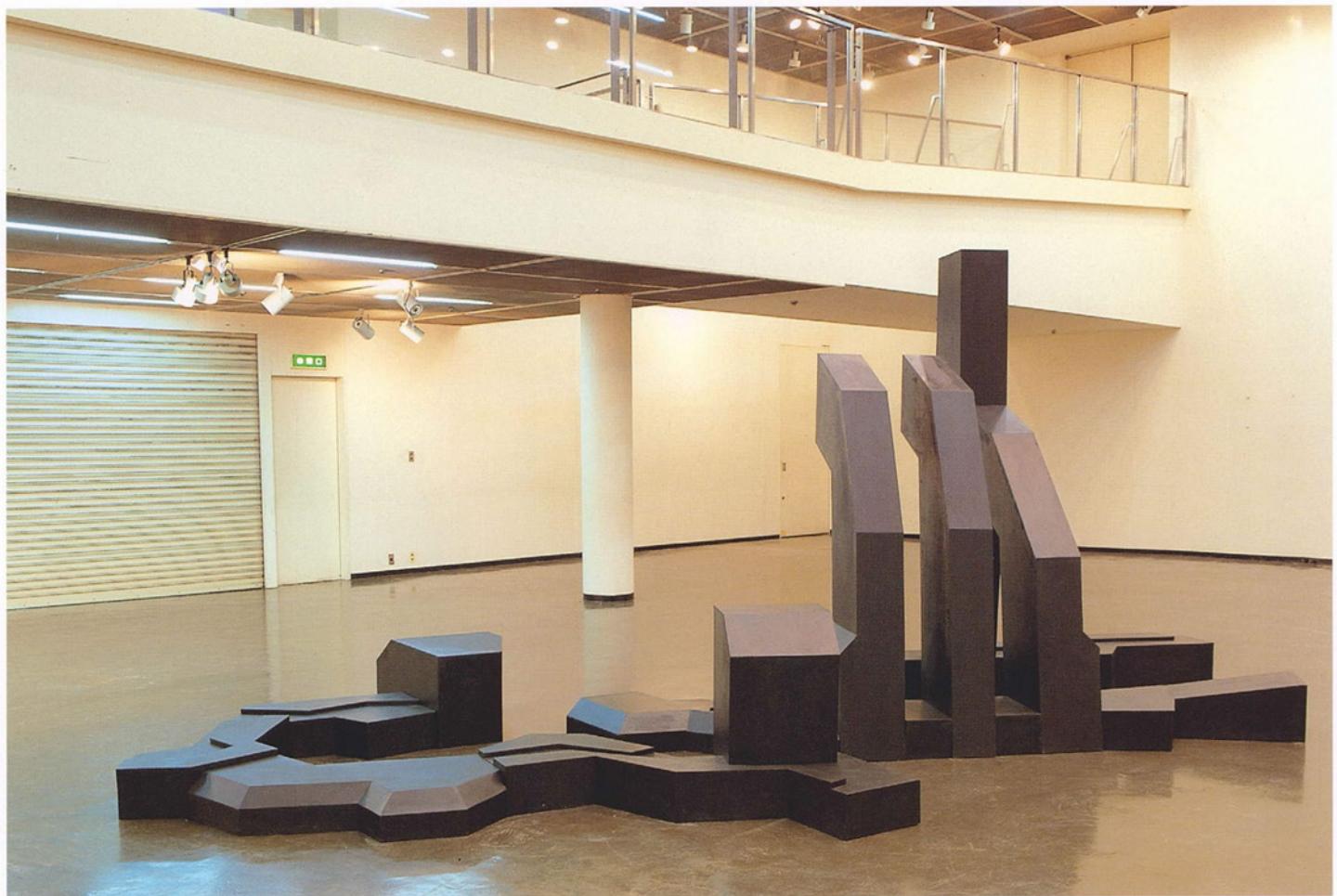
●特選/日本画 時のまどろみ……月館 京子



●特選/日本画 私の居る場所……浅葉 雅子



●特選/洋画 FU95-10……臼井 恵之輔



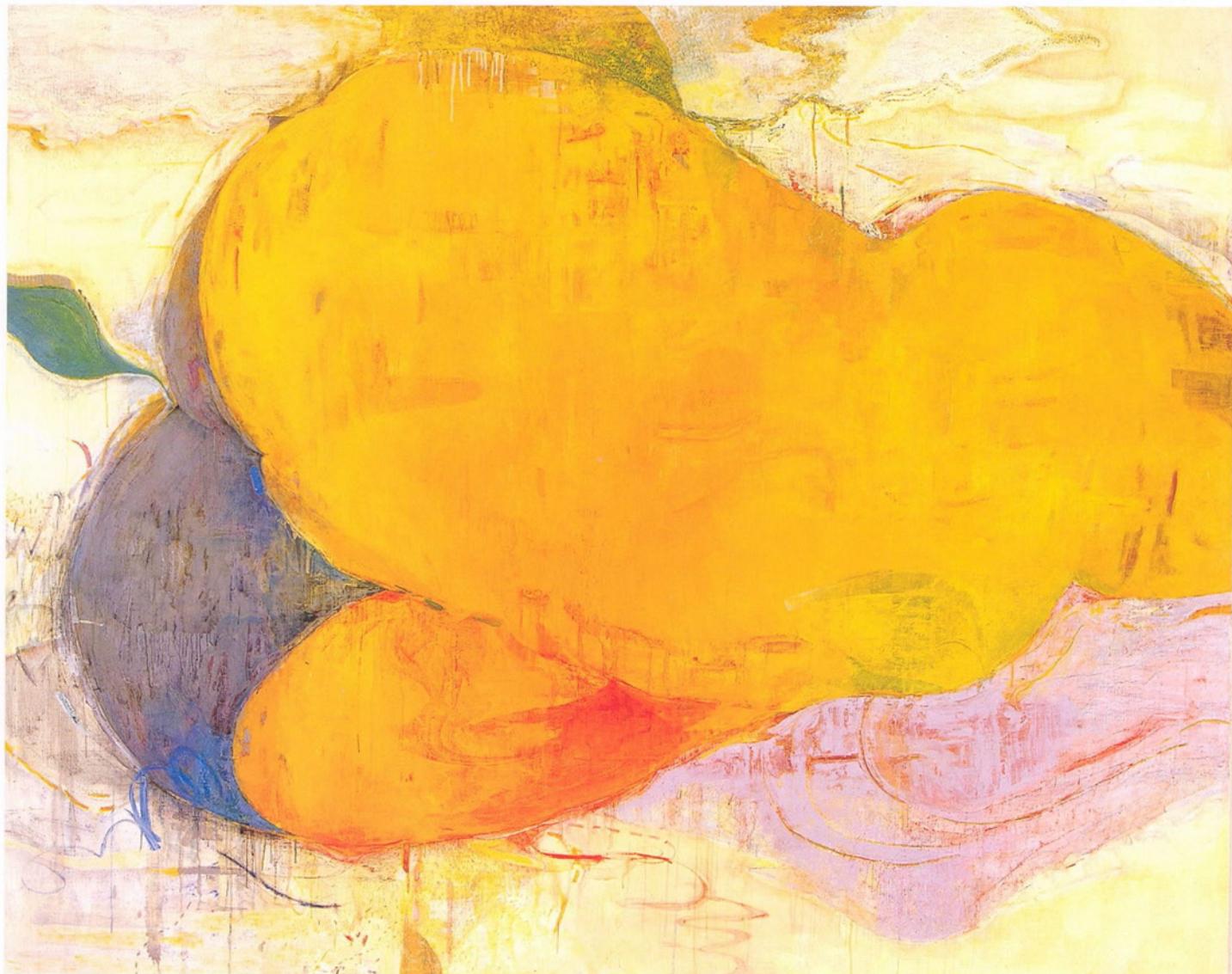
●特選/彫刻・立体造形 ATMOSPHERE……郡田 政之



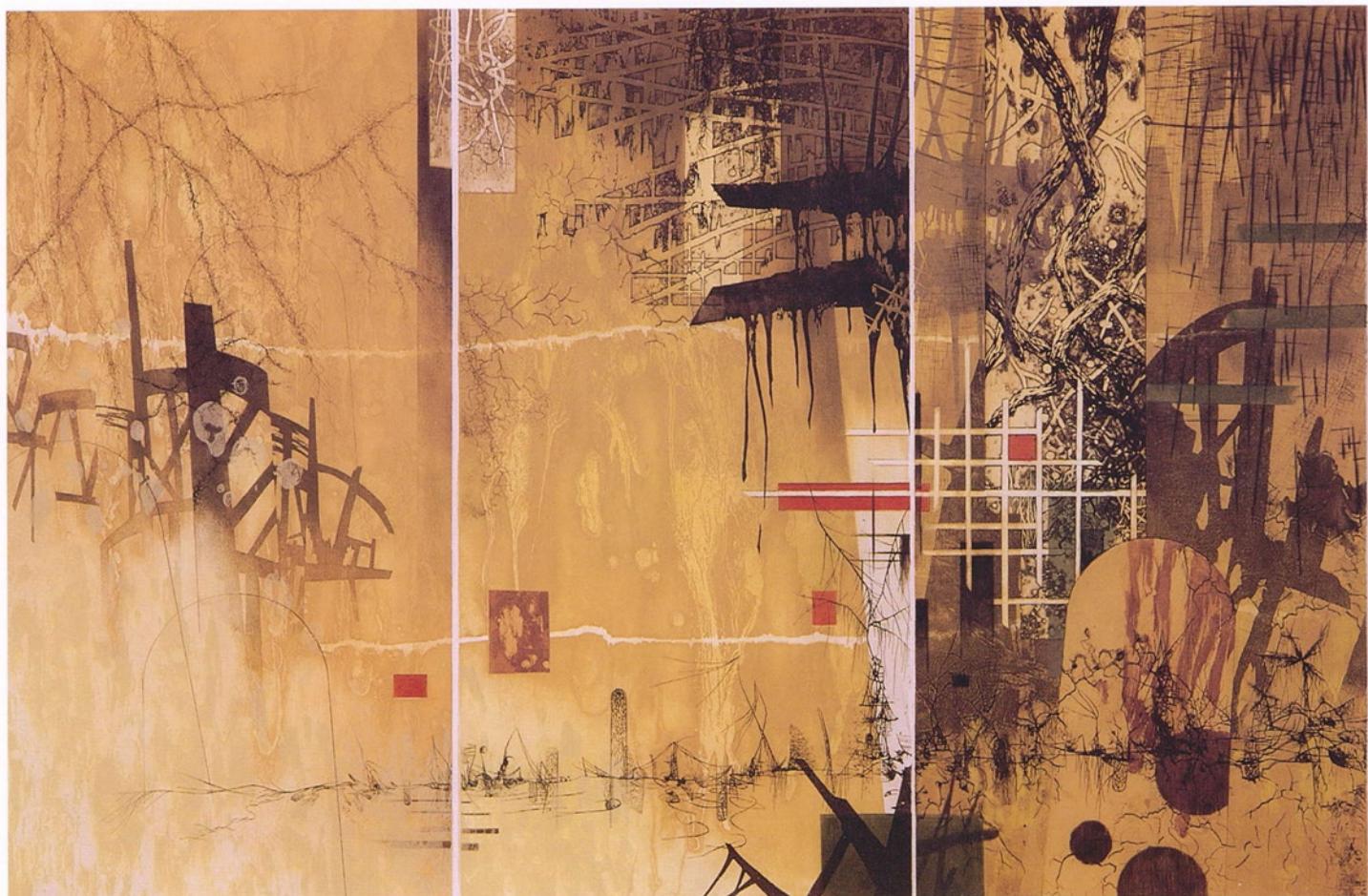
●県立近代美術館賞/版画 destiny……西岡 久實



●特別奨励賞/洋画　浄土……宮本　武典



●特別奨励賞/洋画 必然性のための模索……藤井 剛史



●特別奨励賞/版画 旅の記憶VI 窓からの眺め……中込 洋子



●特別奨励賞/彫刻・立体造形 コロイドトンプ（褐色の象）……三沢 厚彦



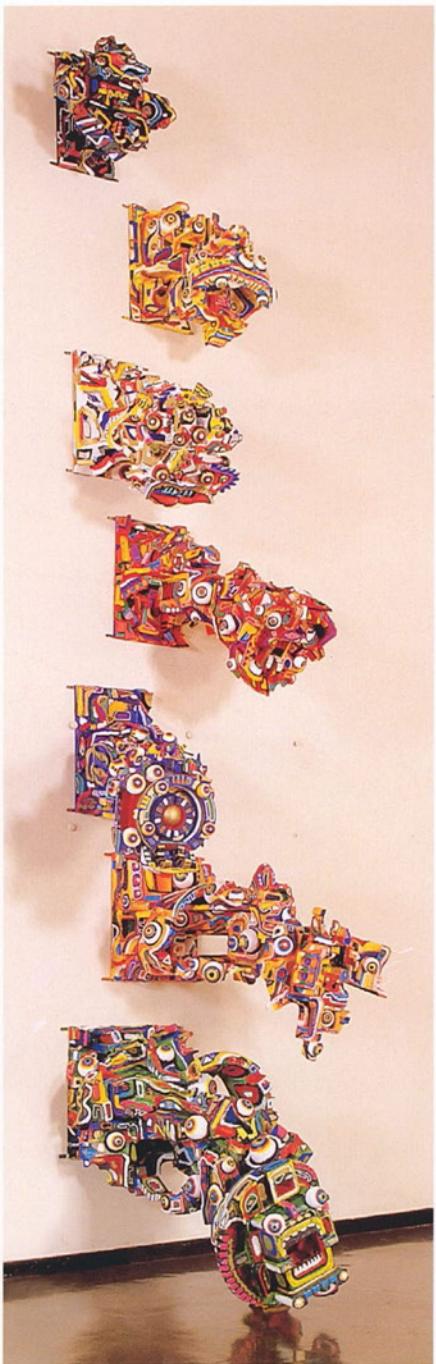
●美術奨学会賞/洋画 迷宮の刻……佐々木 美直子



●美術奨学会賞/版画 眠る土—赤い大地—……田島 佳世



●美術奨学会賞/彫刻・立体造形 県民ギャラリーの空間……田中 忠夫・弘子



●美術奨学会賞/彫刻・立体造形 誓いの七兄弟……千田 肇



●県議会議長賞/日本画 夏草……池田 美弥子

受賞作品目録 [日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形 部門]

大 賞	R 津田	彫刻・立体造形『封印－過去と未来－』	栃木県下都賀郡石橋町
準 大 賞	小泉貴子	版画『INWARD』	横浜市
特 選	月館京子	日本画『時のまどろみ』	川崎市
特 選	浅葉雅子	日本画『私の居る場所』	川崎市
特 選	臼井恵之輔	洋画『FU95-10』	茅ヶ崎市
特 選	郡田政之	彫刻・立体造形『ATMOSPHERE』	藤沢市
県立近代美術館賞	西岡久實	版画『destiny』	横浜市
特別奨励賞	宮本武典	洋画『浄土』	平塚市
特別奨励賞	藤井剛史	洋画『必然性のための模索』	川崎市
特別奨励賞	中込洋子	版画『旅の記憶VI 窓からの眺め』	横浜市
特別奨励賞	三沢厚彦	彫刻・立体造形『コロイドトンプ(褐色の象)』	藤沢市
美術奨学会賞	佐々木美直子	洋画『迷宮の刻』	秦野市
美術奨学会賞	田島佳世	版画『眠る土－赤い大地－』	伊勢原市
美術奨学会賞	田中忠夫・弘子	彫刻・立体造形『県民ギャラリーの空間』	横須賀市
美術奨学会賞	千田肇	彫刻・立体造形『誓いの七兄弟』	秦野市
県議会議長賞	池田美弥子	日本画『夏草』	茅ヶ崎市

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として（財）はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された（財）神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

[日本画]

三村伸絵『廻(V)』
古市正彦『since 1953』
鈴木國男『この夏みつけた永遠に』
今津陽子『雄木』
吉田千恵『三日月池』
新恵美佐子『海鮮魚人物心肉食魚シンドローム』
加藤敏夫『白昼夢』
奥山たか子『夕間暮幻想』
洞口真理子『ほとりで』
市村順子『冥想』
野崎丑之介『波濤』
林昭子『樹—明日へ』
神彌佐子『parallax』
能島千晴『dreaming』
鶴田耕治『想刻』
坂井尚『南の島のヒミツ基地』
佐藤潔『終りし道の標べに～マギの礼拝』
山口月世『SCRAP』
加藤正二郎『月光 II』

[洋画]

知久茂雄『木のある家』
前田啓子『虜(とりこ) A』
萩原和子『卓上(I)』
加藤ひろみ『時間の認識』
KAZUMI·D『synchronous 9』
加藤進『空白の時』
関野正光『痕跡の存在』
右近俊子『虚』
増田臣代『心象風景 II』
中村智恵美『STILL LIFE-C』
田代隆仁『作られた部屋 2』
川北美世子『出会い II』
藤井繁『修羅なる動員』
肥沼守『衆-41』
原田直治『ULTRA KILL TIME』
鈴木悦子『横軸への波及(3)』
高梨理恵『Babylon survival (I)』
横山将二『作品1995-No.27』
仲圭子『花嫁は抱かれる』
大庭京子『永遠の森「水浴」』
田端麻子『最期の夏』
原田智恵『波の花束』
石川紀子『潮溜り』
目黒敏子『脳 2』
小暮満寿雄『大家族』
蓬田真『灰色のテーブル』
平沢理紀夫『雑草の三つの芽』
中沢務『眼差しが後に曲がる』
大野つるね『行く人』
袖田光章『異国の街並』
工藤力『安息の風景』

藤村弘子『RUIN I』
伊藤彰規『ゲニウス・ロキ～北へ～』
沢嶽盛勇『公園(朝・昼・夕)』
松木正代『私は泳げない I』
大塚とみ子『カオス的表現 I』
坪井賀子『Tomorrow II』
田家ハルミ『花の宴 I』
石井 誠『春の楽しみ』
伊藤貴祥『午後の空白』
田鷦佳子『六夕郎』
加藤恭夫『黒の卓上』
吉川和美『ブロックリー(さそい I)』
斎藤 守『うわさばなし』
吉野敦子『フュージョン B』
斎藤輝隆『動くプレート』
金谷ゆみえ『ある日の午後』
中山智介『飛翔への想い』
上田妙子『イエローバージョン』
熊谷美雄『在る人物 I』
松浦昌明『SPACE-Bay Side』
谷川悦子『幻の楽園』
西国 学『あかい砂』
栗林菊枝『マイ・コンポジション No.2』
堀岡正子『樹の譜 I』
村上 遊『A氏の肖像』
高橋 鼎『春を待つ』
小玉政美『残されしもの IV』
岸上嘉世子『ダムサイト宮ヶ瀬 I』
原田由香『Pose IV』
土田幸雄『沈黙』
菅沼 稔『表層残像・36』

西川美智子『木曜日の午後』
長谷川洋子『今日すべきことは何もない』
井手菜穂『imagine-25, 1-』
七沢秀一郎『Shape-(かぶと貝紋)』
吳 拓理『事情達』
溝呂木時子『ある日突然 I』
桜井陽子『ONE SPACE-1』
玉生一江『太陽への挨拶』
生駒幸子『一隅 II』
森田稜子『PURE B』
右近多恵子『SAMPLE-東雲のような出会い』
杉野和子『潜-III』
長岡一豊『路地裏の少年達』
近藤宏治『死を考える時』
今川保充『風景』

[版画]

- 澤岡泰子 『風に聴く－1995(秋)』
市川敏夫 『06-0895』
ウチダヨシエ 『Blue Fantasy II』
タカハシタツロウ 『OOH-POO-PAH-DOO (2)』
足立由紀 『南国風景』
小林 守 『ストレスG』
湯川列晟 『プラトン III』
村山あや 『休日』
平野仁文 『鳥カゴのある風景の皮膜』
清野耕一 『Organic Boundary 95-1-生境-』
谷澤真希 『LE MIEN』
篠島喜久子 『レムの回路』
藤川美子 『1995・Fuzuki-a』
高浦とみ子 『Atomic Heart』
加藤 昌 『ripple』
武田律子 『「旋」作品6』
松野登美子 『街 I』
宮崎文子 『大きな手と…』
野田青隆 『生命の奔流』
世古賢子 『Lots of fingers』
鈴木佐知子 『黄色い都市 I』

[彫刻・立体造形]

- 小宮彌栄子 『巨人界 Sept. 95』
辻 真由美 『風の軌跡～月の音』
濱宇津めぐみ 『中心はどこ?』
蟹沢行史 『scratch』
赤岡正行 『「見る・飲む・入る」』
片岡 操 『TIME TRAVELER』
倉橋元治 『1994-1995 我々が、かつて黒い山羊を解体した時のように』
菱刈俊作 『Twilight education』
阿部佳明 『自我の門－現在－』
金子友紀 『二つの存在』
結城 勉 『P・D-23“LANDSCAPE”-VI-』
高須賀昌志 『よりそつかたち』
長島秀行 『フォトンの水』
長澤裕子 『空の行方』
植原嘉春 『OUMU(系統発生したOUMU)』
辻 美知子 『REDS』
前島健治 『風来』
丸田秀三 『星の化石』

審査経過

日本画

今年はことさらに暑い夏でした。そうした中、秋の神奈川県展に向けて一生懸命描いたのでしょう、審査会場に並んだ作品群からは熱い思いが伝わってきました。応募点数61点、入選点数22点という厳しい状況の中でとりわけ突出した作品はなかったものの、平均レベルは昨年より上昇し、安定しつつある様でした。会場を見回して思ったのは、団体展や無所属の域を越え同じ傾向に捉われず、様々な表現の幅を呈していることを、改めて現在の日本画の所在を見た思いです。

特選を受賞した月館京子氏の「時のまどろみ」は昨年までの描写的で硬い表現から一歩飛躍してイメージが大きく膨らんだようです。1年間しっかり勉強をしたのでしょうか、同じ場所に留まらず自分の可能性を模索して行く精神力は素晴らしいものです。県展ではこうした発展途上の画家達を暖かく見つめ、育てて行く所にその意義がある様です。

同じく特選の浅葉雅子氏の「私の居る場所」は力強く、画家の日常風景を題材に構成力と粘り強い筆致の中に家族に対する愛情がうかがえます。画面が少し説明的なのが気になりますが、絵の具の表現の幅に柔軟性が出ればと思います。

県議会議長賞の池田美弥子氏「夏草」は色と形にセンスが光り、のびやかに歌を歌っている作品です。日本画の絵の具の美しさを知っている人なのでしょう。たっぷりとした肺活量の大きさを作品から感じ、それは大切な絵の要素でもあります。受賞者は皆女性でしたが、それぞれに元気の良い骨太の造形力を持っています。30歳を越えて益々内面豊かに人間性を磨く事も大切な絵の勉強かもしません。

● 振入点数61点(54人) ● 入選点数22点(22人)

賞候補として残った坂井尚氏「南の島のヒミツ基地」、山口月世氏「SCRAP」、共に20代の作品ですが、現代の日本画を反映している若々しいものです。豊かなイメージに裏打ちされ、日本画のデリケートな素材を生かしながら、様々な試みがなされて美しいハーモニーを奏でています。コラージュや木材など異質な素材を用いてはいるもののむしろ日本画特有の空間性が表現されていて、新しい日本画への意欲的な姿勢がうかがえます。他にも心にとまった人は能島千晴氏、野崎丑之介氏、洞口真理子氏等の素直で新鮮な仕事です。これから県展もこうした次の時代を担う新しい日本画が多く参加してより良い研究発表の場になることを心から願うものです。

総じて思う事は、デッサン力や構成力が弱かったり、イメージが痩せていたり、又表現する上で日本画の素材に対する認識の勘違いをしている作品が多々目に付いた事です。日本画とは何か、まず絵画とは何かを考えながら並行して学んでいかなければならないことであり、先に述べた構成力やイメージ、その表現力の問題がこれから日本画の造形表現に於て問われるべきことであるのです。又、日本画の素材が世界的なレベルで優れたものである事も忘れずに、私達は日本画の可能性と現代性を模索しながら日々精進して行きたいものです。

内田 あぐり

洋画

● 振入点数436点(231人) ● 入選点数81点(81人)

今年第31回を迎えた神奈川県美術展は、展覧会全体としてはこのところ、応募人員の総計が千人ほど、点数では1300～1400点位の規模で安定しているようである。そのなかで「洋画」は、今回の応募人員231人、応募点数436点を数えた。神奈川県の県展はおむね水準が高いとの評判は、とりわけ30年前の出発当初あたりによく聞かれたとの話をしばしば耳にする。まず洋画をひと当たり見たうえでの印象によれば、いまもなおその水準の高さはそれなりに保たれていると思える。それなりというのは、他所のこうした類いの公募展でも最近は質の高い作品が集まるものをよく見かける。絵を描く人々がさまざまな機会を求めていることが大きな理由だろうし、賞金の高い展覧会が多くなっていて実績のある人達の参加を促すこともあるだろう。神奈川県展は確かに高い水準にあるが、別段飛び抜けてというほどのことはない。

さて審査の結果、入選したのは80点ほど。1人で2点以上入選した人はいないから、人数でおよそ3人に1人、点数で5点に1点の割合となる。開かれた公募展であるために、アマチュア画家の描く楽しみに拠った絵から実力のある画家たちの絵まで、質的な開きは大きいが、審査するとなると、描く楽しみよりも描く意識のほうに基準が移るのはやむを得ない。絵を描くことに意識的になっている画家たちの作品を次々に見ていくと、こうした公募展の常として、現在の絵画の状況がひと渡りみて取れる。入選作を選んだ後、賞候補として次の5点が評決された。

高梨理恵「バビロン・サヴァイヴァル」、宮本武典「浄土」、佐々木美直子「迷宮の刻」、藤井剛史「必然性のための模索」、臼井恵之輔「FU 95-10」。「バビロン・サヴァイヴァル」では、赤を基調とする激しい色彩の画面に戯劇的に誇張されたワニが広がり、錯綜した形にぎわいに格好の口実を与えて、迫力のある構図が作り出されている。「浄土」は、それとは対照的に静的な効果をもった三幅対で、人間の形も樹木の形も細かく鮮明に描かれている訳ではないためにかえって、造形のおもしろさのうちに宗教画の宗教性とは違った日常に潜む宗教性を漂わせる。「迷宮の刻」は、回廊のような建物が遠近を織りなす歪んだ空間に山羊が孤独にたたずむ。その不安定で非現実的な効果によって、人間の不安な状況が連想される。「必然性のための模索」は、どこか人間を思わせる大ぶりな形に明快な色彩を伴わせてユーモアを発散する。けれどそのユーモアは骨の太い形態感覚に支えられて、画面全体がゆったりと大きい造形性をもっている。「FU 95-10」では、熟練した手際で処理されているマティエールの効果が活かされて密度の高い画面が生まれている。装飾性の強い作品であるが、それに流されることなく装飾性とともに向き合ってそれを強固な存在感に変えている。

審査に当たっては、何か思いがけない新しさと出会えるかもしれないという期待感をもつが、なかなかそれは適えらることはない。神奈川県展でも全体はどちらかと言えば穏やかであった。それでもかなり変化に富んだ応募作総体の幅は、現在の絵画の状況を支える基盤を示して興味深いものであった。

山梨 俊夫

版画

●搬入点数87点(44人) ●入選点数25点(25人)

応募点数87点。44名。例年よりやや少なかったとはいえ、作品内容の質は高い。作品は次第に大型化されてきた。技術もますますすみ、精密になってくる。ただ、表現しようとするイマジネーションが弱い。同じような発想で、大きな展開があまり見えなかつた。

常連というか、毎年、出品している作家も多いようだ。その作品が昨年にくらべて良くなっていると、なぜか「ほっと」する。はじめて出品した作家も大いに頑張っている。これから県内の版画情況は、さらに広がりをみせながら、高度のものになっていくだろう。

入選点数は25点。3割までいっていない。やはり相当の狭い門であった。審査は技術的な評価よりも、表現の強さ、独創的な個性が優先していく。5名の審査員による合議で進んでいく。多数決による投票ではなく、各自が主張し、納得させていった。1点1点、作品の前で話合いが行なわれ、2度目で決着をみる。賞候補の選定も同じ方法がとられ、これは少し手間取つた。

結果的にはつぎの作家が受賞する。

準大賞「INWARD」、小泉貴子。木版。木版のマチエールをいかしたソフトな感じをもつてゐる。横長の大作。静謐な構成的なフォルムが、淡い色彩で表出されていた。大賞をとった立体造形の作品との差はあまりなかつた。これから努力に期待したい。

近代美術館賞「destiny」、西岡久實。木版。強い色彩によってフォービックな世界が描かれていく。これも大作であった。バランスのとれた色調が効果をみせる。

特別奨励賞「旅の記憶VI・窓からの眺め」、中込洋子。銅版。旅愁をただよわせた情感がこもる。構成的な作品としては、もっとつっこんだ力強さが欲しかつた。これも3枚を貼り合せた大きな作品。絵画空間の表出に一考してもいいだろう。

美術奨学会賞、「眠る土ー赤い大地」、田島佳世。リトグラフ。超現実派風なモティーフに、どこか錦絵の雰囲気がみえた。発想の意外さが目をひきつける。どのように展開させるのか、興味がもたれる。今回の受賞者は20代から30代の女性だけである。これは単なる偶然であったが、版画家の時代的な推移をしめしているのかもしれない。選外、受賞しない作品にも、捨てがたい個性をもつたものがある。それをのばすことが重要だろう。

柳生 不二雄

彫刻・立体造形

●搬入点数53点(44人) ●入選点数23点(23人)

応募点数はなぜか昨年より少し減つたが、おもしろい作品が多く目についた。とりわけ、R・津田の《封印ー過去と未来》は、コーナーにボルトを打ち、表面に緑青をおびた棺のような銅の直方体を床におき、木枠にかこまれた真鍮の小さな直方形を遺影のように壁にかける。絵画より立体作品のほうに活気がある時代だが、彫刻としてのモニュメンタリティに背をむけてありきたりの形態に徹し、表面の材質感だけでモチーフを暗示する、発想のユニークさがきわだつていた。その点が受賞審査委員会でも評価されて、今回の大賞となったのは順当な結果といえる。

特選となった郡田政之の《ATMOSPHERE》は、金属塗料を塗った木の抽象形態を、高く林立させた部分から低く床に配置した部分まで組みあわせて、まさにモニュメンタルな効果を生み出したインスタレーション作品である。これまで同種の作品で入選しており、作者の力量は十分知られている。

特別奨励賞の三沢厚彦も力量ある常連出品者の一人で、《コロイドトンプ(褐色の象)》は廃材や廃品を接着して、顔のない象の胸と腕のように力づよくユーモラスな形態をつくる。

田中忠夫と弘子の共同制作《県民ギャラリーの空間》は、布製で15メートルにわたる緋色の太い綱をつくり、これを県民ギャラリー1階の欄干から地下1階の白い柱にからませて、吹きぬけの空間を一変させている。千田肇の《誓いの七兄弟》は、発泡スティロールにアクリル絵具を塗って、原始のトーテムのようにもみえ、眼や口など生き物の顔のイメージもちりばめたユニットを、壁に垂直に配置している。ともに異色ある表現として美術奨学会賞を授賞された。

針生 一郎

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品I』洋画
第3回	42年度	垣内 治雄『坐る』彫刻
第4回	43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画
第5回	44年度	山井 イク夫『Lady 70-1・2』立体造形
第6回	45年度	伊藤 彰『天涯巡礼』日本画 大久保利圏『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵒『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・サンダー(フェリス女学院)』写真
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-'77』彫刻
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋I・II』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書
第16回	55年度	和久井 Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真

第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹隠松影』書
第20回	59年度	東谷 武美『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 巨『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 帆舟『良寛詩』書
第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間 ゆみい『夢印象』工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第26回	2年度	山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 淳一『樹界』写真
第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』彫刻・立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笛澤美明詩 菊』書
第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸

第31回神奈川県美術展 関係者名簿

顧 問

小 倉 遊 亀
斎 藤 義 重
圓 銛 勝 三
蓮 田 倭 吾 郎
殿 村 藍 田
比 田 井 南 谷

委員会委員

委員長 上 野 豊
副委員長 菅 原 寿 雄
美術展委員 井 上 信 道
神 戸 由 雄
國 領 經 郎
近 藤 弘 明
斎 藤 義 重
酒 井 忠 康
弦 田 平 八 郎
殿 村 藍 田
永 井 鐵 太 郎
中 原 佑 介
針 生 一 郎
柳 生 不 二 雄
吉 田 耕 三
渡 辺 豊 重
美術展委員代行 浜 口 タ カ シ

大賞選考委員

日本画、洋画、版画
彫刻・立体造形
近 藤 弘 明
弦 田 平 八 郎
國 領 經 郎
酒 井 忠 康
磯 見 輝 夫
柳 生 不 二 雄
井 上 信 道
針 生 一 郎

工芸、書、写真
永 井 鐵 太 郎
吉 田 耕 三
菅 原 寿 雄
殿 村 藍 田
岡 井 耀 毅
浜 口 タ カ シ

審査員

日本画	
内田	あぐり
工藤	甲人
近藤	弘明
弦田	平八郎
<hr/>	
洋画	
遠藤	彰子
白鳥	三郎
勝呂	忠
山梨	俊夫
<hr/>	
版画	
磯見	輝夫
清塚	紀子
柴田	昌一
柳生	不二雄
渡辺	豊重
<hr/>	
彫刻・立体造形	
井上	信道
小島	弘
斎藤	義重
菅原	二郎
中原	佑介
針生	一郎

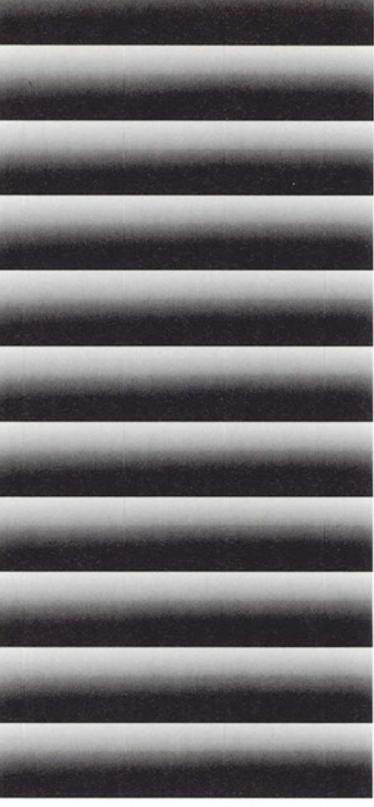
工芸	
江刺	栄一
勝	文彦
篠原	晃代
永井	鐵太郎
野田	芳正
尾留川	忠
吉田	耕三
<hr/>	
書	
高木	幸子
竹田	悦堂
溪口	幽城
茶木	静谷
殿村	藍田
丹羽	蒼処
吉田	春翠
<hr/>	
写真	
板見	浩史
大河原	雅彦
岡井	耀毅
常盤	刀洋子
浜口	夕カシ

実行委員

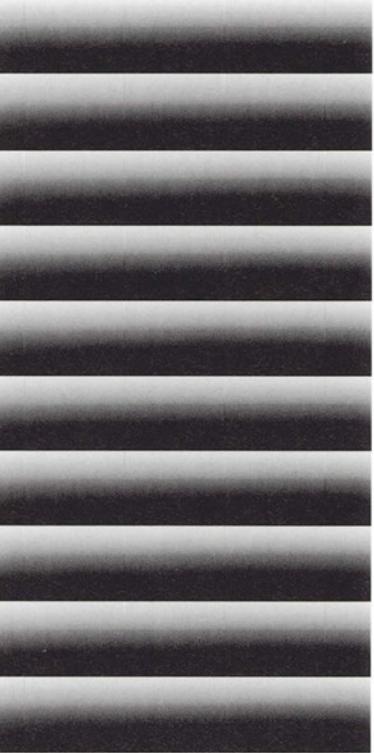
日本画	
大山	鎮彦
◎斎能	藤島和明
<hr/>	
洋画	
石田	茂嗣
田中	茂
◎森山	杏子
<hr/>	
版画	
◎太田	廣
三塩	英春
<hr/>	
彫刻・立体造形	
荒井	正美
石田	眞利
◎奥野	ゆか
辻	忍
<hr/>	
工芸	
◎赤工	堀郁彦
齊藤	直子
芝	藤孝子
鈴木	吉邦
竹松	節子
本	夫昌

書
岩澤
◎大島
川口
久保
島津
島船
阿部
篠崎
鈴木
高橋
中島
◎三井
吉田

◎は実行委員長



ごあんない



おかげさまで、15周年。

15th
Anniversary

PORTA

横浜駅東口

都会派の新ギフト プリペイドの タカシマヤ バラカード



タカシマヤ バラカードは、新ジャンルの生活百貨カードです。

●1,000円 ●3,000円 ●5,000円 ●10,000円 ●30,000円 ●50,000円 ●100,000円の7種類

タカシマヤ バラカード、こんなところが便利です。

①お買物のたびごとにわずらわされる小銭の心配がありません。②ご贈答用にスマート。③ギフトパッケージ(無料・有料の専用パッケージ)を各種ご用意いたしております。④裏面にはご利用月日と残額が30回まで表示されます。

※なお、ご利用回数が30回を超えたカードにつきましては、高島屋各店の商品券売場にてご利用残高分のカードを再発行いたします。

※タカシマヤ バラカードは、ギフトカード1,000円券などの一部の商品を除き各店でのお買物をご利用いただけます。

※バラカードをお求めの際には消費税がかかりません。

バラカードのお求めは

●横浜店：1階商品券サロン・6階商品券売場で承ります。

 **Takashimaya** YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111/全館夜7時まで営業

プロのために、プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図・デザイン用品コーナー

■本店〈文具館〉4F・5F/横浜・イセザキ町 TEL.(045)261-1231 ■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル 5F TEL.(0466)26-1411

■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F TEL.(045)453-0811 ■厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

※ルミネ店は書道用品・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂ギャラリー イセザキ町・本店書籍館5F

《個展・グループ展》申込承り中 ※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝室ギャラリー係 ☎(045)825-5507

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といったたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

い い 顔 し て 生 き て い こ う よ。



43の専門ショップがおとどけする
超個性ファッション&グッズ。
バラエティに富んだ30のおいしさが
集うテイスティ・ステージ。

〒231 横浜市中区真砂町3-33(JR・地下鉄関内駅前) TEL045-651-1431代

Good for you
CERTE

時代のリズムを奏でます。

私たちは、

さまざまな表現を駆使して

情報に命を吹き込む

コミュニケーションの

トータルクリエイター。

最新の設備と

先端の技術で

情報をカタチにします。



野毛印刷は、情報化時代の多彩なニーズにお応えします。

- マッキントッシュからハイエンドへ、文字・画像データの統合処理システム完成。お客様が制作した文字データ、レイアウトデータからダイレクトに印刷物が作成されます。
- データベースの構築、顧客管理＆名簿作成など、コンピュータを駆使してつくるものならどんなものでも、コンピュータに強い当社におまかせください。
- 効果的なDM展開が可能なシークレットメール。リーフレットを折りたたんだ封筒兼用タイプ、1枚で2枚分の情報を盛り込めるハガキタイプなど、ご相談に応じます。
- ポスター、カタログ、チラシ、パンフレット、リーフレット、マニュアル、営業案内、会社案内、定期刊行物、PR誌、カレンダー、テレホンカード、包装紙、ショッピングバッグ（紙orボリ）、図録、写真集、自分史、社史、記念誌、その他、印刷に関わるものなら何でも、どんなことでも、お気軽にご相談ください。

通産大臣賞 中小企業庁長官賞 東京通産局長賞受賞

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231 ☎(045)681-0861㈹
営業本部・工場／横浜市南区新川町1-2 〒232 ☎(045)252-2511㈹
東京営業所／東京都港区浜松町1-2-17 〒106 ☎(03)5401-1231㈹

営業企画本部
(045)252-2511

FAX. 営業企画本部／(045)252-8826
東京営業所／(03)5401-1230

印刷ショップ 株式会社アトラス
中区相生町5丁目 馬車道 ☎(045)641-4132

企画・デザイン 株式会社エイ・シー・ピー
中区弁天通6丁目 ☎(045)201-8263

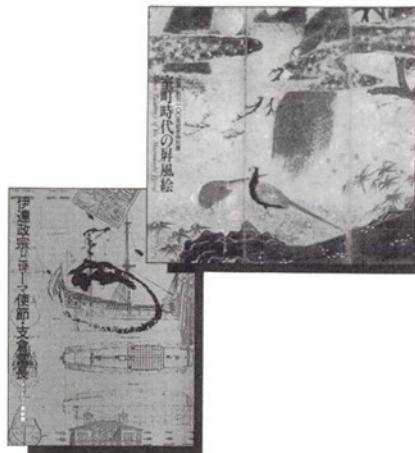
たくさんの“感動”を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

IT IS OUR BUSINESS TO CARRY “INSPIRATION”
The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays
a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績

Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィーナス展・VENUS DE MILO
ツタンカーメン展・TUTANKHAMEN
レンブラント名作展・EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES
大阪万国博美術展・EXPO'70 ART EXH.
ゴヤ展・GOYA EXH.
モナ・リザ展・MONA LISA EXH.
東大寺展・EXH. OF TODAIJI TEMPLE
江戸大美術展・THE GREAT JAPAN EXH.
将軍の時代展・THE SHOGUN AGE EXH.
インド古代彫刻展・ANCIENT SCULPTURES OF INDIA
比叡山と天台の美術展・THE ART OF TENDAIJII BUDDHISM
ロダン展・AUGUSTE RODIN EXH.
黄河文明展・EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER
薬師寺展・EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE
日タイ修好100周年展・EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND
世界現代ガラス展・WORLD GLASS NOW EXH.
神々のかたち—仮面と神像—THE SHAPES OF GODS—MASKS & IMAGES OF GODS
シーポルトと日本・VON SIEBOLD AND JAPAN
エジプト展・THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT
17世紀オランダ絵画展・HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17. TH
柿右衛門展・KAKIEMON STYLE WARE EXH.
スミソニアンーアメリカの大発明展・SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY
鎌倉彫刻展・UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)
ミレー展・MILLET EXH.
大英博物館展・THE BRITISH MUSEUM EXH.
中国兵馬俑展・CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.
トプカプ宮殿秘蔵展・THE SPLENDOUR OF TURKISH CIVILIZATION: OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE
日本国宝展・NATIONAL TREASURES OF JAPAN
ローマの支倉常長展・HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME
ユーロパリア展・EUROPAlia EXH.
ヴァチカン展・MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN
三井寺秘宝展・ART TREASURES OF MII-DERA TEMPLE



「信頼と技術」で
美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械
および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海・陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。



日本通運 横浜北支店 ☎045-521-2222

発行・神奈川県美術展委員会

事務局：神奈川県民部文化室

表紙デザイン・株式会社 伊藤隆之デザイン事務所

撮影・菊屋写真工房・大橋一彦

本文デザイン・制作・株式会社 野毛印刷社

